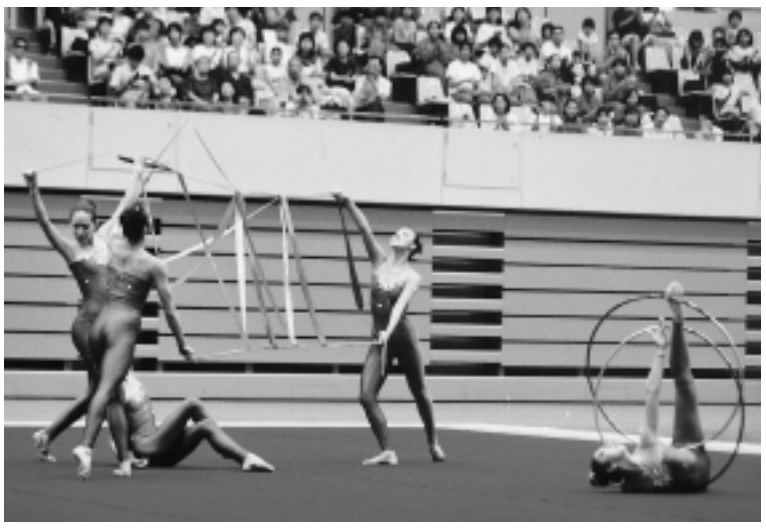
# フォトピックス



## ▲シドニー代表 華やかにお手本

7月28日、運動公園総合体育館で県中学校総合体育大会の新体操競技が行われました。終了後、シドニーオリンピック日本代表6選手が模範演技を披露、会場を魅了しました。

## ▶図書館業務を体験

7月25日から4日間、有馬図書館で「1日図書館員」が行われました。32人の小学生がパソコンを使った本の貸し出しなどの図書館業務を体験しました。

## ▲親子で完走ナイトウオーク

7月22日、第16回親子ナイトウオークラリーが行われました。午後9時、86組283人が地図を片手に市南部のコースへ向けてスタート、4時間後には全員がゴールしました。

# まんまるあちゃん

北村 遥夏ちゃん

勝瀬、北村陽・綾さんの長男＝1歳

向井 翔馬ちゃん

中新田、向井博昭・ひろみさんの長男＝1歳

小林 慧哉ちゃん

杉久保、小林浩・幸子さんの長男＝1歳

松本 由伸ちゃん

大谷、松本剛・英子さんの2男＝1歳

藤井 夏海ちゃん

門沢橋、藤井泰弘・恵子さんの長女＝1歳

柴田 真希ちゃん

柏ケ谷、柴田圭介・昭子さんの長女＝1歳

宮本 葉奈ちゃん

下今泉、宮本幸司郎・美恵さんの長女＝1歳1カ月

北村 優太ちゃん

中新田、北村健一・直美さんの長男＝1歳

**このコーナーに掲載を希望する方は…**

電話で広報広聴課（内271）へ。ただし、申し込み時点で1歳未満の赤ちゃんに限りますので、お早めにどうぞ。なお、申込数が多く掲載できない場合もあります。

## みなさんからの作品　海老名の風景⑦

〔国分寺台5丁目バス通り／7月14日〕
国分寺台在住・谷田正雄さん撮影

〔澁谷神社例大祭（門沢橋）／7月16日〕
綾瀬市在住・古泉尚さん撮影

# 数字で見る海老名⑮

## 25

### 初回から四半世紀

### ふるさとまつり

▲第2回は海西中グラウンドで開催

## 夏の風物詩として定着

25年。えびなふるさとまつり初回開催から四半世紀がたちました。今回は、ますます盛り上がりをみせるこのまつりを振り返ってみることにします。

■

昭和51年10月31日、市制施行5周年を記念して、ふるさとまつりが産声をあげました（会場は旧市役所周辺＝現プライムタワー周辺）。2回目以降は夏の開催となって、みこしやはやしも繰り出すようになりました。

海西中学校グラウンドで開催された第2回から現在まで毎回、はやし参加している本郷下河内はやし連会長の清田一秀さん（本郷）は「海西中ではテントは数張で、みこしは子どもみこしの展示が中心。私たちのはやしは、地元の高齢の方から習い始めて1年くらいたったころだった。当時は、みこしやはやしが市内を練り歩くまつりになるなど想像もつきませんでしたね」と感慨深げ。

第4回（昭和54年）には、会場が面積の広い海老名駅西口の小田急グラウンドに移り、約2万人が参加しました。当時の海老名は人口およそ10万5000人。東京・横浜方面からの転入者が多く、県内屈指の人口急増都市といわれていたため、まつりの主目的には「新旧市民の交流」があげられていました。また、まつりのフィナーレを飾る打ち上げ花火は約100発。「打ち上げの間隔も長く、今のように1000発が次々と夜空を彩るスタイルとは違い、もう少しのんびりした雰囲気だった」（前出、清田さん）そうです。

■

第15回（平成2年）以降は現在の市役所周辺が会場となり、今やふるさとまつりはわがまちの夏の風物詩としてすっかり定着しました。新しい世紀でも、郷土色あふれる手作りイベントであってほしいと思います。

▶今回のオープニングを飾った流し踊り

**編集後記**

ワークキャンプに参加した中学生たちは、一様に「短かったけど、とてもいい経験ができた」と話していました。この号が出るころには夏休みも後半。もっともっといろいろな体験をして、2学期にはたくさんの思い出話ができるようになるといいですね。（康）